

## 2019 年度 事業報告・会計報告

特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

## NPO 法人共存の森ネットワークの活動指針

当 NPO は、「聞き書き甲子園」の活動と、この事業に参加した経験をもつ卒業生有志からはじまった「共存の森」と呼ぶ活動を母体に生まれました。

森とともに生きてきた先人たちの伝統的な暮らしの知恵や技の集積の中に持続可能な社会の基本があることを見据えながら、人と自然・人と人との「共存」を基本とした社会づくりと、新たな価値観の創造に寄与することを目的としています。

そのために、当 NPO は「聞き書き甲子園」の運営をはじめ、「閉じられた生態系ー地球ー」の上で全人類と他の生物が共存するための「人づくり」、「森づくり」、「地域づくり」、「情報発信」等、様々な活動を展開していきます。

これらの活動を末永く続けていくことが、持続可能な社会の構築への一歩と考えます。そのためには、大人たちから若い世代へ、若い世代から大学生・高校生へと、世代をつないでいくことが重要です。

当 NPO の使命と社会的役割について、会員の皆様の積極的な議論を期待するとともに、引き続き、活動へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 2019年度事業報告<2019年5月1日～2020年4月30日>

### 概要

2002年に始まった「聞き書き甲子園」は、本年度、第18回の開催となりました。

本年度より、名人の生業や暮らしの基盤である「地域」にスポットをあてる観点から、高校生が「聞き書き」する名人の推薦と高校生の受け入れに協力する地域（市町村等）を公募し、実施することとしました。

公募の結果、12地域にご協力いただくこととなり、計80名の名人を、高校生が「聞き書き」しました。

「聞き書き」は、人と人、人と自然、世代と世代の関係性をつなぎ直し、未来を担う次世代を育てる活動です。

高校生による「聞き書き」は、大分県の世界農業遺産地域でも、当NPOがサポートし、実施しています。「聞き書き」を通して、農を営む風土や景観を持続可能な形で保全・利用し、将来につながることを目的です。

海外では、昨年度に引き続き、インドネシアの高校生を対象に、民族の言語や文化の多様性を尊重し、その豊かさを語り伝えるための「聞き書き」に取り組みました。

また、中学生を対象とした聞き書きプログラム「きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～」は第2回開催を迎え、本年度は東京都あきる野市、檜原村で「名人」の聞き書きを行うとともに、各自「ものがたり」を創作し、影絵芝居で表現しました。

岡山県真庭市では、農山村での多様な生き方、働き方を志す社会人を対象とした人材育成塾「真庭なりわい塾」を開催。本年度は、第4期基礎講座（初年度プログラム）と第3期実践講座（2年目プログラム）を実施しました。

当NPOの活動は、中学生から高校生、大学生、社会人と多様な世代を対象に実施していますが、「人と自然・人と人との『共存』を基本とした社会づくりと新たな価値観の創造に寄与する」という、活動の理念に変わりはありません。

会員の皆様、そして行政や企業、団体、市民の皆様の活動に対するご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、以下、それぞれの活動の詳細についてご報告を申し上げます。

## I 組織

### 1. 会員（2019年4月30日現在）

	一般会員	ユース会員	法人・団体会員
正会員	44人（+1）	42人（+2）	
賛助会員	28人（-2）		3社7口

※ユース会員・・・・・・・・満23歳未満で正会員となる方

※（）・・・・・・・・昨年同時期からの増減

### 2. 役員（敬称略）

役名	氏名	所属等
理事長	澁澤 壽一	株式会社エスパシオ代表取締役
理事	吉野 奈保子	NPO 法人共存の森ネットワーク事務局
理事	工藤 大貴	フリーランス（第8回 聞き書き甲子園参加）
理事	峯川 大	NPO 法人共存の森ネットワーク事務局 （第9回 聞き書き甲子園参加）
理事	本多 美優	ハイジ・インターフェイス株式会社
理事	小林 和彦	NPO 法人やんばる・地域活性サポートセンター事務局長
監事	須河 紗也子	富山県南砺市商工会利賀村事務所
監事	中山 幹生	株式会社森里川海生業研究所

## II 事業

### 1. 人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

#### ① 聞き書き甲子園の開催

##### <第18回 聞き書き甲子園の実施>

「聞き書き甲子園」は、全国の高校生が、森・川・海の名人を訪ね、自然とともに生きる知恵や技、その生きざまを「聞き書き」によって記録し、発信する活動です。「聞く」ことを通して世代間のコミュニケーションを図り、持続可能な社会を担う若者を育成することを目的に平成14年度より事業を行っています。

第18回開催より、名人の生業や暮らしの基盤である「地域」にスポットをあてる観点から、高校生が「聞き書き」する名人の推薦と高校生の受け入れに協力する地域（市町村等）を前年度に公募し、実施することとしました。

公募の結果、協力する地域は、以下12地域に決定。各地域とも6～8名の名人を推薦いただき、計80名の名人に高校生の「聞き書き」に協力いただくこととなりました。

##### [第18回協力地域]

山形県酒田市飛島／山形県飯豊町／茨城県大子町／新潟県柏崎市／福井県小浜市／愛知県豊根村／三重県志摩市／奈良県川上村／山口県下関市／徳島県神山町／大分県国東半島・宇佐地域（豊後高田市・杵築市・宇佐市・国東市・姫島村・日出町）／宮崎県都城市

##### [実施スケジュール]

2019年 5月14日	参加高校生募集開始
6月24日	募集締切り
7月12日	参加高校生決定
8月11日～14日	事前研修実施（於：高尾の森わくわくビレッジ）
9月～12月	名人への取材（於：全国）・聞き書き作品づくり
12月13日	作品提出締切り・「聞き書き作品集」制作開始
2020年 4月23日	「聞き書き作品集」完成・発送
6月13日	フォーラム（成果報告会）開催

##### [実施内容]

2019年5月より参加高校生の募集を開始しました。全国125校から211名の高校生の応募があり、うち80名の参加を決定しました。

事業運営にあたっては、学生15名からなるサポートスタッフが研修カリキュラムやワークショップを企画したほか、地域ごとのリーダーとして参加高校生のサポートを行いました。

事前研修は、8月11～14日に都内で実施しました。高校生は取材する地域ごとのグループに分かれて、講義や聞き書き実習、写真撮影講習等に参加しました。聞き書き実習には、協力地域の市町村職員やNPOスタッフ等にも参加いただき、高校生が実習でインタビューを行う際の「話し手」として協力いただくとともに、地域の概要や名人の紹介を行っていただきました。

最終日にはNPO法人こども哲学・おとな哲学アーダーコーダの角田将太郎氏、幡野雄一氏の協力により、サポートスタッフの企画によるワークショップも行いました。

研修後、高校生は全国12地域に分かれて「聞き書き」取材を行い、作品をまとめました。

聞き書きを体験した参加高校生の感想には、単身で名人を訪ねることへの不安や緊張から一変、名人の仕事への情熱や人柄に感銘を受けたことが多く語られていました。他方で、生きるために必要な要素を学んだという意見や仕事の捉え方が変わったという感想も見られました。教員や保護者からは、高校生の自主性が向上した、進路の選択に対する意欲が高まった等の感想が寄せられました。

「聞き書き」の成果を発表するフォーラムは、2020年3月21日に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により6月13日に延期し、オンラインで開催することとなりました。

4月下旬には、高校生の作品をまとめた「聞き書き作品集」が完成しました。今回より判型をB5判に変え、デザインも刷新し、高校生、名人、協力市町村などに配布しています。協力市町村向けには、広報活動やイベント等にて活用いただくため、同作品の電子データも合わせて贈呈しました。

なお、第18回開催より、協力地域（市町村等）において成果発表会等を開催する際に、その費用の一部を補助する制度を新設しました。現在5地域（山形県飯豊町、新潟県柏崎市、徳島県神山町、大分県国東半島・宇佐地域、宮崎県都城市）から申請を受理しています。各地域では2020年12月末までに成果発表会等を開催する予定です。

#### [実施体制]

第18回開催より、同事業を主催する実行委員会は、農林水産省（林野庁・水産庁）、文部科学省、環境省、(公社)国土緑化推進機構と当NPOの5者で構成することとなりました。前年度に引き続き、(株)ファミリーマートをはじめとする下記の企業・団体からの支援により実施しています。

[主催]聞き書き甲子園実行委員会（農林水産省・文部科学省・環境省・公益社団法人国土緑化推進機構・特定非営利活動法人共存の森ネットワーク）

[募金協力・企業寄付]株式会社ファミリーマート

[協賛・協力]トヨタ自動車株式会社、富士フィルムホールディングス株式会社、京王電鉄株式会社、株式会社ティムコ、株式会社トンボ、株式会社長塚電話工業所、株式会社ベネッセコーポレーション、一般財団法人環境文化創造研究所、公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会、公益財団法人 SOMPO 環境財団

[助成]公益財団法人日本財団、一般社団法人昭和会館

[後援]総務省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、全国山村振興連盟、全国過疎地域自立促進連盟、NPO 法人「日本で最も美しい村」連合

※事業運営にあたっては、年2回の実行委員会を開催するとともに、「聞き書き甲子園」に関わる行政、企業、団体、学生スタッフ等が集まり、活動の実施状況と今後の展開について意見を交わす FOXFIRE 倶楽部を開催しました。



## <第19回 聞き書き甲子園 協力地域（市町村等）の公募>

次年度（2020年度）実施する第19回聞き書き甲子園協力地域（市町村等）の公募を2019年6月10日～9月2日の期間に行いました。16地域より応募があり、以下12地域を採択しました。各地域とも6～8名の名人を推薦いただき、計86名の名人に協力いただく予定です。

第19回協力地域：北海道浦幌町／青森県八戸市／山形県小国町／栃木県鹿沼市／石川県能登町／長野県飯田市（南信濃地区）／岐阜県中津川市（加子母地区）／大阪府阪南市／岡山県備前市／徳島県佐那河内村／徳島県にし阿波地域（美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町）／長崎県大村市

## <デジタルアーカイブ>

高校生がまとめた「聞き書き作品」は、聞き書き作品集として冊子にまとめるとともに、（一社）農山漁村文化協会（ルーラル電子図書館を運営）のご協力により、「聞き書き電子図書館」に順次収録し、ネット上で公開しています。本年度は、昨年度（2018年度）に実施した第17回聞き書き甲子園の作品収録作業を行いました。

## ② 「Edu Town あしたね」との協働事業

東京書籍（株）が運営する「Edu Town あしたね」は、小・中学校のキャリア教育を支援する総合サイトです。「聞き書き作品」を広く、小・中学校の教育現場で活用いただくために、同サイトに「海・川の仕事人」に関する特集ページを開設しています。同サイトには、「聞き書き甲子園」の活動を紹介するとともに、小中学校の授業での実践事例を掲載しています。また、聞き書きの実践や調べ学習を行う際に活用いただくためのワークシートも掲載しています。

サイト URL : <https://ashitane.edutown.jp/umikawa/>

本年度は公益財団法人日本財団の助成により、「海・川の仕事」に関する特集ページを増設するとともに、聞き書き甲子園の事前研修等で活用するための「聞き書きの手引き」を作成しました。

## 2. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

### ① 「共存の森」の活動

農山漁村地域をフィールドに人の暮らしと自然とのつながりを学び、未来へつなぐ活動です。聞き書き甲子園のOB・OGの発案で、学生が中心となって運営してきましたが、最盛期に6地区7地域で実施していた活動は、現在、休止しています。

なお、同活動でお世話になった各地域とのつながりは、現在も続いており、関東地区は任意団体「NPOのろし」、北陸地区は「一般社団法人高根コミュニティラボわあら」（いずれも「聞き書き甲子園」OB・OGが立ち上げた団体）と「高根フロンティアクラブ」（高根地区の地域活性化団体）が、同活動を基盤に新たな活動展開を模索しています。

### ② 「きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～」の実施

「きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～」は、東京都の自然公園エリア（主として秩父多摩甲斐国立公園）内の山村地域で、都内の中学生が林業等に従事する名人に「聞き書き」を実施。その体験を各自「ものがたり」を創作し、影絵芝居で表現する活動です。

2年目となった本年度は、2019年8月25日～27日に「聞き書き体験プログラム」を実施。参加中学生9名が、高校生・大学生サポーターのもと、林業家や泥染め職人等に「聞き書き」をしました。そして聞き書きで感じたこと、学んだことをもとに「ものがたり」を創作。11月24日には、あきる野市の廃校を活用した文化交流・宿泊施設「戸倉しろやまテラス」を会場に、各自「も

の「ものがたり」を影絵芝居で表現し、発表しました。当日は、あきる野市内の事業者が出店するクラフトマーケットや武蔵野美術大学生によるワークショップ等も実施し、およそ 200 名が来場しました。「聞き書き」や「ものがたり」の創作・発表を通して、自然の豊かさやそこに暮らす人の生業の大切さに、中学生自身が気づくことはもちろん、来場者も関心を持つきっかけを提供しました。

〔きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～ 実施体制〕

同事業は、東京都環境局、都の自然公園エリアの市町村、当 NPO が実行委員会を結成して主催。東京ガスグループ「森里海つなぐプロジェクト」等の支援を得て実施しています。

〔主催〕 第 2 回「きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～」実行委員会  
(東京都・あきる野市・檜原村・特定非営利活動法人共存の森ネットワーク)

〔協賛〕 東京ガスグループ「森里海つなぐプロジェクト」

〔協力〕 株式会社ベネッセコーポレーション進研ゼミ中学講座

〔助成〕 トヨタ環境活動助成プログラム

〔後援〕 青梅市、奥多摩町、日の出町



### 3. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

#### ① 「学校の森・子どもサミット」の開催

「学校林」等、身近な緑を活用した体験活動や教育活動の発表、先生方との意見交換等を通じて、小・中学校の森林環境教育の輪を全国に広げることを目的に、林野庁、(公社)国土緑化推進機構、公益財団法人オイスカ、公益財団法人ニッセイ緑の財団と当 NPO を中心に、開催地域の都道府県、市町村等に主催に加わっていただきながら、平成 26 年度より 5 年間、開催を続けてきました。

本年度は、これまでの総括としてのサミットを 2019 年 11 月 2 日、伊那市立伊那西小学校を会場に開催しました。

第 1 部では、「子どもサミットのこれまで」として、森林を活用した教育活動の事例を発表。第 2 部では、「森で起きたこと・森と触れる効能」と題したトークセッションを行いました。第 3 部では、森に関する伊那市の取り組みを紹介するとともに、ミニコンサート等を行いました。当日の来場者は約 300 名でした。

今後、同サミットは、小・中学校のほか、幼稚園・保育園等の活動事例も加えた内容とし、名称も変えて、新たに生まれ変わる予定です。

[学校の森・子どもサミット 実施体制]

本年度は、当 NPO に代わり、伊那市ミドリナ委員会が事務局を担当しました。

[主催] 第6回 学校の森・子どもサミット実行委員会

(公社) 国土緑化推進機構、(特非) 共存の森ネットワーク、森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク、国立信州高遠青少年自然の家、長野県、長野県教育委員会、伊那市、伊那市教育委員会、伊那市ミドリナ委員会、林野庁  
[特別協賛] 一般財団法人セブン-イレブン記念財団

## ② 「第6回 海辺の自然再生・高校生サミット」の開催

「海辺の自然再生・高校生サミット」は、全国でアマモ場の再生活動等に取り組む高校生の発表と交流を通して、次世代に活動の輪を広げていくことを目的に実施しています。

本年度は、宮城県塩竈市で2019年11月9～10日に開催した「全国アマモサミット2019 in みやぎー豊かな松島湾を次代へつなぐー」のプログラムの一部として実施しました。

サミットでは、東日本大震災以降の松島湾におけるアマモ場の経過やその価値についての講演が行われ、海の環境再生と市民活動をテーマにしたパネルディスカッションが行われました。高校生サミットには、全国13校の高等学校が参加し、活動事例の発表等を行いました。

[海辺の自然再生・高校生サミット 実施体制]

[主催] 特定非営利活動法人海辺つくり研究会、特定非営利活動法人共存の森ネットワーク

[協賛] 一般財団法人セブン-イレブン記念財団、マルハニチロ株式会社

## ③ インドネシアの地方言語と伝統的知識の継承のための「聞き書き」の普及

前年度に引き続き、(独法) 環境再生保全機構の地球環境基金の助成により、インドネシアの地方言語と伝統的知識の継承を目的とした高校生による「聞き書き」を、島上宗子氏(一社あいあいネット共同代表)と協働で実施しました。

[聞き書き研修]

2019年7月19日に、ゴロンタロ州ゴロンタロ市において「聞き書き研修」を実施、17校から生徒20名、教師・大学教員・NGOスタッフらを含む、約50名が参加しました。

7月22～23日には、スラウェシ州ドンガラ県で実施。7校より生徒22名、教師など計35名が参加しました。

9月26日には、西ジャワ州ボゴール県で実施しました。ボゴール農科大学コルニタ高校より生徒15名が参加しました。また、ボゴール農科大学の1年生を対象とした研修には、約50名の参加がありました。

高校生・大学生らは、同年11月にかけて名人を取材し、作品をまとめました。聞き書きコンテストには、合計38作品(高校生27作品、大学生11作品)が提出されました。

[聞き書き発表会]

2020年2月2～3日、ボゴール農業大学にて、聞き書き成果発表会を開催しました。発表会には、高校生、大学生、NGOスタッフ、教員など、約130名が参加しました。初日は、優秀作品の表彰を行うとともに、日本とインドネシアの聞き書きの取り組みの紹介やパネルディスカッションを行いました。翌日には、教師と学生のグループに分かれて「聞き書きはなぜ必要か」「聞き書きの継続のために必要なこと」をテーマに話し合いを行いました。このプログラムには、12校より19名の生徒と教師が参加しました。

発表会での話し合いの結果、今後の活動継続のために「Kikigaki Indonesia」という新たな組織体制を立ち上げることを決定しました。ポゴール農業大学教員や現地 NGO メンバーがその中核を担います。現在、同組織はインドネシアでの聞き書きの普及を目指し、ウェブサイトの制作に取り組んでいます。



#### 4. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

##### ① 「世界農業遺産」地域の聞き書き

国際連合食糧農業機関（FAO）は、グローバル化、環境悪化、人口増加の影響により衰退の途にある伝統的な農業や文化、土地景観の保全と持続的な利用が図られている地域を「世界農業遺産」に認定しています。日本国内で同遺産に選定された「能登の里山里海」（2011年認定／石川県）と「クヌギ林とため池をつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」（2014年認定／大分県）の2地域では、地元高校生が地域の持続可能な知恵を未来に引き継ぐ「聞き書き」を実施。その運営を当NPOが受託してきました。

##### <能登の里山里海人の知恵の伝承事業>

これまで石川県世界農業遺産実行委員会では、「能登の里山里海人の知恵の伝承事業」の一環として地元高校生による「聞き書き」を実施しましたが、同事業は、新たな教育プログラム「能登里山里海×高校生 未来の仕事プロジェクト」として実施することとなり、当NPOは本年度、外部講師（アドバイザー）として関わりました。

##### <大分県国東半島・宇佐地域での高校生による聞き書き>

前年度に引き続き、大分県から委託を受けて「国東半島・宇佐地域での高校生による聞き書き事業」を実施しました。

2019年7月11日に、前年度実施した「聞き書き」発表会を大分県豊後高田市にて開催。当NPOは、高校生による発表のコーディネーターとして参加しました。

また、本年度の聞き書き研修会は、第1回を7月29日に杵築市で、第2回を10月23日に豊後高田市で実施。9校32名の高校生が参加し、学校ごとに9名の名人への聞き書きを行いました。当NPOは、同研修の企画・運営を行うとともに、聞き書き作品の添削指導を行いました。

## ② 真庭なりわい塾の実施

「真庭なりわい塾」は、岡山県真庭市中和地区を主なフィールドとし、これからの生き方・働き方、持続可能な社会のカタチを考える人材育成塾です。岡山県真庭市、中和地区住民、当NPOの3者による実行委員会が主催し、当NPOは真庭市交流定住推進課とともに事務局を担っています。本年度は、第4期塾生24名を迎え入れ、6月より翌年1月までの計8回の講座を実施しました。また、第3期の塾生は、地域づくり、小屋作り、里山の食と薬をテーマにした3つのプロジェクトに分かれた実践講座（2年目プログラム：計5回）に参加し、活動を行いました。同塾の開催は、岡山県真庭市の補助を得て実施しています。

また、同塾の活動をより多くの方に知っていただくために、4月25日にはオンラインイベントを実施しました。

## 5. その他

### ① インターン生の受け入れ

公益財団法人SOMPO環境財団の「CSOラーニング制度」により、2019年6月から翌1月まで、人間総合科学大学3年生の近能一真さんと東洋大学2年生の前橋柚菜さんをインターン生として受け入れました。

### ② 広報活動

広報活動は、ホームページ、オフィシャルブログ、facebook、インスタグラム、twitter等を通して行いました。また、聞き書き甲子園のホームページでは、聞き書き甲子園のOB・OGによる「列島ききがきノート」のブログ更新等を行いました。

### ③ 事務局スタッフの交代

2019年8月をもって関友美さんが退社しました。同年9月から三木夏苗さんが、2020年4月から峯川大さんが常勤スタッフとして加わりました。

## 2019年度決算報告

### 1. 2019年度決算についての監査報告書

#### 監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの

2019年度決算について監査の結果、事業報告は事業の

内容を適切に反映していると認めます。

2020年 5 月 28 日

特定非営利活動法人

共存の森ネットワーク

監事 中山 幹生 

#### 監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの

2019年度決算について監査の結果、事業報告は事業の

内容を適切に反映していると認めます。

2020年 5 月 28 日

特定非営利活動法人

共存の森ネットワーク

監事 須河 紗也子 

## 2. 2019年度 活動計算書

書式第13号(法第28条関係)

令和元年度 活動計算書			
令和元年 5月 1日から令和2年 4月30日まで			
特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク			
(単位:円)			
科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	345,000		
賛助会員受取会費	199,000	544,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金		867,944	
3 受取助成金等			
受取助成金	38,005,454		
受取協賛金	6,600,000		
受取補助金	6,324,725	50,930,179	
4 事業収益			
青少年教育事業収益(注1)	83,835		
普及啓発事業収益(注2)	44,879		
森づくり事業収益(注3)	313,979		
地域づくり事業収益(注4)	1,189,890	1,632,583	
5 その他収益			
受取利息	386		
雑収益	782,444	782,830	
経常収益計			54,757,536
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
給料手当	12,053,200		
法定福利費	1,557,230		
福利厚生費	72,720		
人件費計	13,683,150		
(2)その他経費			
広告宣伝費	200,880		
印刷費	2,471,784		
支払手数料	615,240		
制作費	5,212,304		
施設借上費	270,801		
講師料	1,731,895		
リース料	696,944		
原稿料	850,000		
車両借上費	1,605,145		
事務用品費	606,284		
消耗品費	162,120		
地代家賃	1,200,000		
保険料	211,119		
租税公課	1,200		
旅費交通費	17,558,687		
通信運搬費	837,848		
諸会費	225,400		
会議費	109,771		
新聞図書費	2,882		
委託費	4,251,396		
道具資材費	90,000		
雑費	21,281		
その他経費計	38,932,981		
事業費計		52,616,131	
2 管理費			
(1)人件費			
福利厚生費	18,140		

人件費計	18,140		
(1)その他経費			
求人広告料	54,000		
支払手数料	59,905		
施設借上費	3,480		
車両借上費	2,640		
事務用品費	222,024		
消耗品費	880		
保険料	11,244		
租税公課	120,000		
会議費	28,000		
通信運搬費	27,278		
委託費	162,000		
雑費	2,138		
繰延資産償却	150,000		
その他経費計	843,589		
管理費計		861,729	
経常費用計			53,477,860
当期経常増減額			1,279,676
税引前当期正味財産増減額			1,279,676
当期正味財産増減額			1,279,676
前期繰越正味財産額			19,809,769
次期繰越正味財産額			21,089,445

### 3. 2019年度 計算書類の注記

書式第16号(法第28条関係)

令和元年度 計算書類の注記							
特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク							
1. 重要な会計方針							
計算書類の作成は、NPO法人会計基準(平成22年7月20日 平成23年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。							
(1) 消費税等の会計処理							
消費税等の会計処理は、税込方式によっています。							
2. 事業別損益の状況							
(単位:円)							
科目	青少年教育事業(注1)	普及啓発事業(注2)	森づくり事業(注3)	地域づくり事業(注4)	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益							
1. 受取会費					0	544,000	544,000
2. 受取寄附金			867,944		867,944		867,944
3. 受取助成金等	35,786,003	5,900,000	2,769,451	6,424,725	50,880,179	50,000	50,930,179
4. 事業収益	83,835	44,879	313,979	1,189,890	1,632,583		1,632,583
5. その他収益					0	782,830	782,830
経常収益計	35,869,838	5,944,879	3,951,374	7,614,615	53,380,706	1,376,830	54,757,536
II 経常費用							
(1) 人件費							
理事報酬					0		0
給料手当	8,881,200	1,220,000	750,000	1,222,000	12,053,200		12,053,200
退職金					0		0
法定福利費	1,431,524	41,902		83,804	1,557,230		1,557,230
福利厚生費	72,720				72,720	18,140	90,860
人件費計	10,385,444	1,261,902	750,000	1,305,804	13,683,150	18,140	13,701,290
(2) その他経費							
広告宣伝費	200,880				200,880		200,880
求人広告料					0	54,000	54,000
印刷費	2,395,002	160	76,822		2,471,784		2,471,784
支払手数料	582,730	550		31,960	615,240	59,905	675,145
制作費	4,734,112	300,000	178,192		5,212,304		5,212,304
施設借上費	96,633	11,160	81,630	81,378	270,801	3,480	274,281
講師料	409,923	324,548	260,802	736,822	1,731,895		1,731,895
リース料	696,944				696,944		696,944
原稿料	820,000			30,000	850,000		850,000
水道光熱費					0		0
車両借上費	784,134	175,240	266,090	379,681	1,605,145	2,640	1,607,785
事務用品費	598,678		3,439	4,167	606,284	222,024	828,308
消耗品費	111,237	2,070	48,813		162,120	880	163,000
地代家賃	1,200,000				1,200,000		1,200,000
保険料	204,519	6,600			211,119	11,244	222,363
修繕費							0
租税公課	600			600	1,200	120,000	121,200
旅費交通費	10,064,566	3,290,780	1,090,104	3,113,237	17,558,687		17,558,687
通信運搬費	761,673	34,326	19,221	22,628	837,848	27,278	865,126
雑会費	7,000	170,000		48,400	225,400		225,400
会議費	27,678	25,800	54,133	2,160	109,771	28,000	137,771
新聞図書費				2,882	2,882		2,882
委託費	1,753,452		867,944	1,630,000	4,251,396	162,000	4,413,396
涼具資材費			90,000		90,000		90,000
雑費	11,561			9,720	21,281	2,138	23,419
繰延資産償却					0	150,000	150,000
その他経費計	25,461,322	4,341,234	3,036,790	6,093,635	38,932,981	843,589	39,776,570
経常費用計	35,826,766	5,603,136	3,786,790	7,399,439	52,616,131	861,729	53,477,860
当期経常増減額	43,072	341,743	164,584	215,176	764,575	515,101	1,279,676
3. 事業正式名称							
(注1)人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業							
(注2)「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業							
(注3)「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業							
(注4)「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業							

事務局

吉野 奈保子（事務局長）

三木 夏苗

峯川 大

大谷 めい

特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

〒156-0043 東京都世田谷区松原 1-11-26 コスモリヴェール松原 301 号

TEL: 03-6432-6580 FAX: 03-6432-6590 E-mail: [mori@kyouzon.org](mailto:mori@kyouzon.org)

<http://www.kyouzon.org/>